

マルチリンガル教育センター アニュアルレポート 2022

2023.5.30 / 作成:マルチリンガル教育センター広報委員会

(1) 全学共通教育マルチリンガル教育科目

1. 概要

マルチリンガル教育センターは、大阪大学全学共通教育の枠組みのなかで、英語をはじめとする各国語やそれに関係する異文化理解についての教育を下記のように実践した。開講科目の決定、時間割の編成、教員の配置、シラバスの作成、成績管理等の業務についてはセンターに所属する教員で構成されたカリキュラム委員会とセンター教務係が主体となって実施した。なお、年度内の新型コロナウイルス感染状況や大学の方針に鑑みて、すべての授業を、春・夏学期は原則としてメディア授業で、秋・冬学期は原則として教室における対面授業として実施した。

2. 第1外国語(英語)

全学部生を対象に第1外国語「総合英語」科目を実施し、またコンピューター上での自主学習を中心とする「実践英語(e-learning)」科目では期末試験として TOEFL ITP を実施した(表1・2・3)。

3. 第2外国語／選択外国語／グローバル理解

各学部が独自に指定するドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、朝鮮語、スペイン語、イタリア語の「第2外国語」科目と、それらの各言語に対応する演習「グローバル理解」科目を実施した。文学部と人間科学部の学生には英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、ギリシア語、ラテン語といった「選択外国語」科目も開講した(表1・2)。またドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語についてはさらなる語学の向上を望む学生向けに「第2外国語上級」も開講した(表4)。新入生による第2外国語の履修選択に際しては、4月の履修登録前に希望調査を行なって抽選等の選別を実施した(表6)。

4. グローバル理解(特別外国語)

全学部生を対象に、外国語学部の専任教員の担当による広東語、モンゴル語、インドネシア語、ウルドゥー語、トルコ語、ポルトガル語、タイ語、ベトナム語、ビルマ語、ヒンディー語、ハンガリー語、デンマーク語の「グローバル理解(特別外国語)」科目を開講し、英語等のメジャーな言語に留まらない、真にグローバルな言語文化に関する教育を実施した(表5)。

表(1)2022年度に開講した「第1外国語」「第2外国語」「選択外国語」「グローバル理解」(1年次)

配当 年次	科目 区分	科目名	春～夏学期			秋～冬学期		
			開講 クラス数	受講者数	クラス 平均人数	開講 クラス数	受講者数	クラス 平均人数
1 年 次	第 1 外 国 語	総合英語(Project-based English)	11	271	24.6	16	433	27.1
		総合英語(Content-based English)	22	760	34.5	20	751	37.6
		総合英語(Liberal Arts & Sciences)	81	3,490	43.1	63	2,710	43.0
		総合英語(Performance Workshop)	39	1,095	28.1	53	1,582	29.8
		総合英語(Academic Skills)	10	250	25.0	10	291	29.1
		総合英語(integrated course)Ⅰ・Ⅲ・Ⅱ・Ⅳ	32	1,226	38.3	32	1,267	39.6
		合計	195	7,092	36.4	194	7,034	36.3
	第 2 外 国 語	ドイツ語初級Ⅰ・Ⅱ	30	1,126	37.5	30	1,122	37.4
		フランス語初級Ⅰ・Ⅱ	19	711	37.4	19	720	37.9
		ロシア語初級Ⅰ・Ⅱ	7	74	10.6	7	75	10.7
		中国語初級Ⅰ・Ⅱ	18	814	45.2	18	819	45.5
		朝鮮語初級Ⅰ・Ⅱ	1	27	27.0	1	25	25.0
		スペイン語初級Ⅰ・Ⅱ	2	35	17.5	2	34	17.0
		イタリア語初級Ⅰ・Ⅱ	1	10	10.0	1	13	13.0
		合計	78	2,797	35.9	78	2,808	36.0
	選 択 外 国 語	英語選択	5	160	32.0	5	171	34.2
		ドイツ語初級Ⅰ・Ⅱ選択	2	51	25.5	2	51	25.5
		フランス語初級Ⅰ・Ⅱ選択	1	37	37.0	1	39	39.0
		ロシア語初級Ⅰ・Ⅱ選択	1	8	8.0	1	8	8.0
		中国語初級Ⅰ・Ⅱ選択	1	27	27.0	1	26	26.0
		ラテン語初級Ⅰ・Ⅱ選択	1	25	25.0	1	18	18.0
		ギリシャ語初級Ⅰ・Ⅱ選択	1	22	22.0	1	11	11.0
		合計	12	330	27.5	12	324	27.0
	グ ロ ー バ ル 理 解	国際コミュニケーション演習(ドイツ語)	8	268	33.5	8	267	33.4
		地域言語文化演習(ドイツ語)	24	839	35.0	20	600	30.0
		国際コミュニケーション演習(フランス語)	19	732	38.5	15	550	36.7
		地域言語文化演習(フランス語)	-	-	-	-	-	-
		国際コミュニケーション演習(ロシア語)	3	50	16.7	3	35	11.7
		地域言語文化演習(ロシア語)	2	24	12.0	2	25	12.5
		国際コミュニケーション演習(中国語)	18	848	47.1	12	585	48.8
		国際コミュニケーション演習(朝鮮語)	1	26	26.0	1	24	24.0
		国際コミュニケーション演習(スペイン語)	2	38	19.0	-	-	-
		地域言語文化演習(スペイン語)	-	-	-	2	38	19.0
国際コミュニケーション演習(イタリア語)		1	9	9.0	-	-	-	
地域言語文化演習(イタリア語)		-	-	-	1	10	10.0	
合計	78	2,834	36.3	64	2,134	33.3		

表(2)2022年度に開講した「第1外国語」「第2外国語」「選択外国語」「グローバル理解」(2年次)

配当年次	科目区分	科目名	春～夏学期			秋～冬学期		
			開講クラス数	受講者数	クラス平均人数	開講クラス数	受講者数	クラス平均人数
2年次	第1外国語	総合英語(Project-based English)	9	234	26.0	3	81	27.0
		総合英語(Content-based English)	4	155	38.8	3	100	33.3
		総合英語(Liberal Arts & Sciences)	45	1,998	44.4	32	1,367	42.7
		総合英語(Performance Workshop)	26	739	28.4	16	446	27.9
		総合英語(Academic Skills)	11	293	26.6	11	295	26.8
		合計	95	3,419	36.0	65	2,289	35.2
	第2外国語	ドイツ語中級	34	1,137	33.4	6	163	27.2
		フランス語中級	21	811	38.6	7	221	31.6
		ロシア語中級	7	100	14.3	2	26	13.0
		中国語中級	18	821	45.6	5	228	45.6
		朝鮮語中級	2	26	13.0	1	8	8.0
		スペイン語中級	3	74	24.7	1	23	23.0
		イタリア語中級	1	14	14.0	1	13	13.0
		合計	86	2,983	34.7	23	682	29.7
	選択外国語	英語選択	5	172	34.4	3	96	32.0
		ドイツ語中級選択	2	41	20.5	1	28	28.0
		フランス語中級選択	1	38	38.0	1	17	17.0
		ロシア語中級選択	1	7	7.0	1	4	4.0
		中国語中級選択	1	38	38.0	1	21	21.0
		ラテン語中級III・IV選択	1	16	16.0	1	15	15.0
		ギリシャ語中級III・IV選択	1	3	3.0	1	2	2.0
		合計	12	315	26.3	9	183	20.3
	グローバル理解	国際コミュニケーション演習(ドイツ語)	-	-	-	-	-	-
		地域言語文化演習(ドイツ語)	7	189	27.0	2	47	23.5
		国際コミュニケーション演習(フランス語)	2	42	21.0	4	45	11.3
		地域言語文化演習(フランス語)	1	46	46.0	1	4	4.0
		国際コミュニケーション演習(ロシア語)	1	4	4.0	-	-	-
		地域言語文化演習(ロシア語)	1	6	6.0	1	6	6.0
		国際コミュニケーション演習(中国語)	2	99	49.5	1	39	39.0
		地域言語文化演習(中国語)	-	-	-	-	-	-
		地域言語文化演習(朝鮮語)	1	8	8.0	1	8	8.0
		国際コミュニケーション演習(スペイン語)	1	21	21.0	-	-	-
		地域言語文化演習(スペイン語)	-	-	-	1	22	22.0
国際コミュニケーション演習(イタリア語)		1	13	13.0	-	-	-	
地域言語文化演習(イタリア語)		-	-	-	1	13	13.0	
合計	17	428	25.2	12	184	15.3		
総計			573	20,198	35.2	457	15,638	34.2

(表3)2022年度に開講した「実践英語(e-learning)」

配当年次	科目区分	科目名	春～夏学期			秋～冬学期		
			開講クラス数	受講者数	クラス平均人数	開講クラス数	受講者数	クラス平均人数
1年次	第1外国語	実践英語 (e-learning入門)	1	262	262.0	1	3,491	3491.0
2年次		実践英語 (e-learning応用)	1	3,456	3456.0	1	221	221.0

(表4)2022年度に開講した「第二外国語(上級)」

配当年次	科目区分	科目名	春～夏学期			秋～冬学期		
			開講クラス数	受講者数	クラス平均人数	開講クラス数	受講者数	クラス平均人数
2年次	上級外国語	ドイツ語上級	1	7	7.0	1	3	3.0
		フランス語上級	1	0	0.0	1	2	2.0
		ロシア語上級	1	1	1.0	1	0	0.0
		中国語上級	1	5	5.0	1	4	4.0
合計			4	13	3.3	4	9	2.3

(表5)2022年度に開講した「グローバル理解(特別外国語)」

配当年次	科目群	科目名	開講クラス数	受講者数	クラス平均人数	開講クラス数	受講者数	クラス平均人数
指定なし	グローバル理解(特別外国語演習)	特別外国語演習(広東語)Ⅰ	1	19	19.0	-	-	-
		特別外国語演習(モンゴル語)Ⅰ	1	4	4.0	-	-	-
		特別外国語演習(インドネシア語)Ⅰ	1	15	15.0	-	-	-
		特別外国語演習(ウルドゥー語)Ⅰ	1	1	1.0	-	-	-
		特別外国語演習(トルコ語)Ⅰ	1	5	5.0	-	-	-
		特別外国語演習(スウェーデン語)Ⅰ・Ⅱ	-	-	-	-	-	-
		特別外国語演習(ポルトガル語)Ⅰ・Ⅱ	1	23	23.0	1	7	7.0
		特別外国語演習(タイ語)Ⅰ	-	-	-	1	38	38
		特別外国語演習(ベトナム語)Ⅰ	1	8	8	-	-	-
		特別外国語演習(ビルマ語)Ⅰ	-	-	-	1	23	23.0
		特別外国語演習(ヒンディー語)Ⅰ	-	-	-	1	36	36.0
		特別外国語演習(ハンガリー語)Ⅰ	-	-	-	1	34	34.0
		特別外国語演習(デンマーク語)Ⅰ	1	26	26	1	21	21.0
合計			8	101	12.6	6	159	26.5

(表6)第二外国語の選抜過程

学部グループ	第2外国語	定員	開講クラス数	第1希望者数	決定者数
文学部 人間科学部	ドイツ語	100	2	86	86
	フランス語	100	2	67	67
	ロシア語	50	1	9	9
	中国語(文)	50	1	39	39
	中国語(人)	50	1	36	36
	朝鮮語	50	1	24	24
	スペイン語(文)	50	1	12	12
	スペイン語(人)	50	1	20	20
	イタリア語(文)	50	1	8	8
	日本語	20	1	3	3
法学部 経済学部	ドイツ語	200	4	130	130
	フランス語	200	4	149	149
	ロシア語	50	1	17	17
	中国語	200	4	192	192
	日本語	20	1	4	4
医学部 歯学部 薬学部	ドイツ語	350	7	219	219
	フランス語	100	2	82	82
	ロシア語	50	1	8	8
	中国語	100	2	86	86
	日本語	20	1	0	0
理学部	ドイツ語(理・基)	450	9	273	273
	フランス語	100	2	72	72
	ロシア語	50	1	11	11
	中国語	100	2	74	74
	日本語	20	1	2	2
基礎工学部	フランス語	150	3	98	98
	ロシア語	50	1	6	6
	中国語	150	3	172	172
	日本語	20	1	0	0
工学部 (然・地・環)	ドイツ語	250	5	173	196
	フランス語	150	3	108	122
	ロシア語	50	1	5	8
	中国語	100	2	139	99
	日本語	20	1	0	0
工学部 (理・電)	ドイツ語	250	5	160	200
	フランス語	150	2	86	106
	ロシア語	50	1	11	15
	中国語	100	2	164	100
	日本語	20	1	5	5
全体	ドイツ語	1,600	32	1041	1104
	フランス語	950	18	662	696
	ロシア語	350	7	67	74
	中国語	850	17	902	798
	朝鮮語	50	1	24	24
	スペイン語	100	2	32	32
	イタリア語	50	1	8	8
	日本語	140	7	14	14

(2) TOEFL ITP

1. 概要

マルチリンガル教育センターは、「実践英語(e-learning)」科目の期末テストとして TOEFL ITP を用いている。同科目は、原則として 1 年次生および 2 年次生の全員が履修する必修科目であり、TOEFL ITP の受験者も正規生だけで年間約 6800 人に達する。

2. 2022 年度の実施日程

コロナ禍の悪条件の中、2022 年度も TOEFL ITP を以下の日程で実施した：

春～夏学期：

- ・正規日程：6 月 25 日(土)、26 日(日)
- ・追試：7 月 5 日(火)、7 日(木)
- ・在宅試験(健康上の理由から教室での試験を回避する必要がある学生向け。

TOEFL ITP digital を利用したリモート試験)：7 月 24 日(日)

秋～冬学期：

- ・正規日程：12 月 3 日(土)、4 日(日)、10 日(土)
- ・追試：12 月 15 日(木)、20 日(火)
- ・在宅試験：1 月 22 日(日)

3. 成績(全学平均点)

1) 概観

2019 年度、英語新カリキュラムが導入されて以降、「実践英語(e-learning)」の枠組みで行う TOEFL ITP のスコアは微増傾向にある。2022 年度は、春～夏学期に 2021 年度入学の 2 年次生が、秋～冬学期に 2022 年度入学の 1 年次生がそれぞれ受験し、2 年次生の成績が 509.81 点、1 年次生が 508.58 点に達した(「3」データ)に示した表のオレンジ色染めの部分。正規生のみをカウントし、再履修生は含めず。)。これらのスコアは、旧カリキュラム下での成績に比べ 15 点前後の伸びを示している。

2) 2年次生の成績

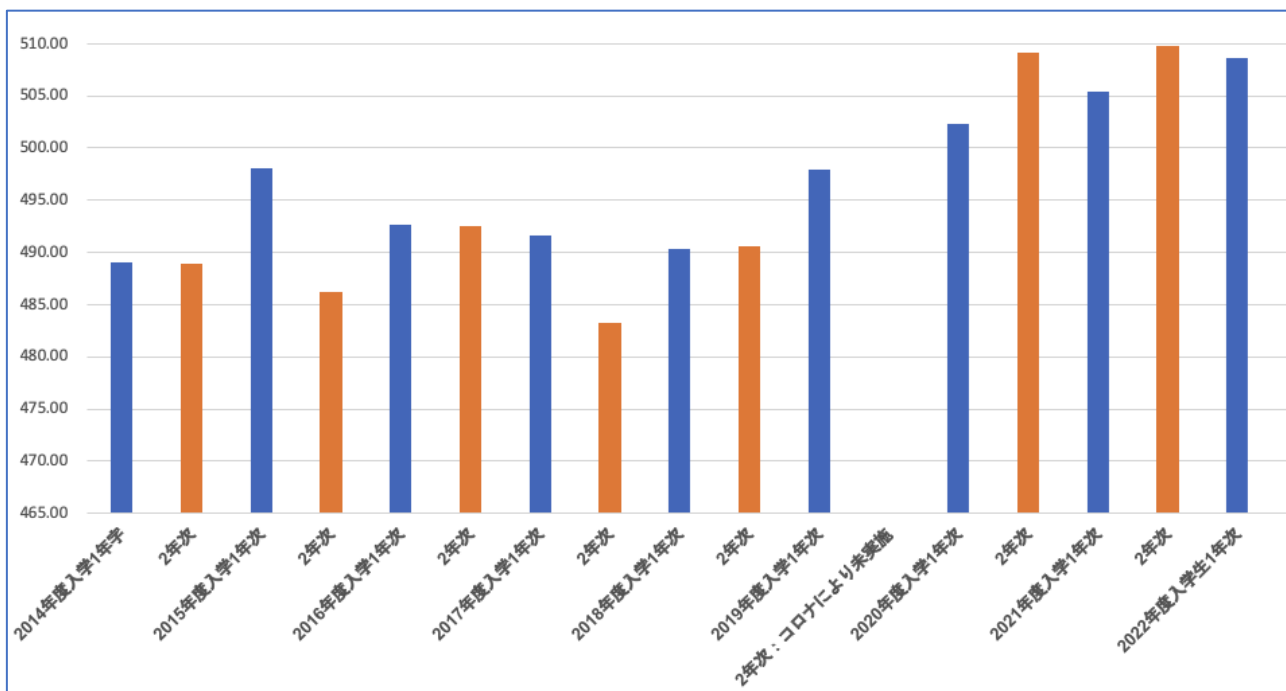
大学生の英語力は、一般に入試直後の1年次でもっとも高く、2年次以降は下がっていく傾向にある。大阪大学も旧カリキュラムの時代まではその傾向をまぬがれていなかった。しかし新カリキュラム導入以降の傾向として、2年次の TOEFL ITP スコアは1年次を上回っている。カリキュラム改革が効果を発揮している証拠であるかもしれない。

3) データ

TOEFL ITP 全学部平均点推移 2014年度入学者～2022年度入学者

2014年度入学者		2015年度入学者		2016年度入学者		2017年度入学者		2018年度入学者	
1年次	2年次	1年次	2年次	1年次	2年次	1年次	2年次	1年次	2年次
489.02	488.87	498.03	486.20	492.62	492.50	491.57	483.25	490.37	490.55

2019年度入学者		2020年度入学者		2021年度入学者		2022年度入学者	
1年次	2年次	1年次	2年次	1年次	2年次	1年次	2年次
497.94	コロナのため実施せず	502.26	509.17	505.39	509.81	508.58	2023.6月実施予定



(3) ESAP 教材作成チーム

1. 教材作成の準備

前年度から引き続き、ESAP 教材開発チームでは、ニーズ分析などに基づき、2 年次総合英語授業で副教材として利用できる ESAP 語彙教材の開発を進めた。

前年度は、コロケーションを扱う教材を作成したが、今年度は、これまでに作成した科学・工学系論文コーパスから、頻度情報をもとに一般英語・一般学術英語の頻度リストを利用して、科学・工学系論文コーパスに特徴的な単語・複合語を抽出したリストを作成した。また、これまでに出版されたものやウェブ上で公開されている専門用語リストを参照用に整理した。

2. 春夏学期－夏休み

2022 年度春夏学期は、前年度作成したコロケーション教材に修正を加えたものをプロジェクトチームメンバー 2 名と協力者 1 名の計 3 名の総合英語の授業で試用した。

単語・複合語については、科学・工学系論文に特徴的なものとして抽出したリストから、専門用語リストを参考にしながら、教材に含めるものを選別し教材を作成した。選別にあたっては、日本語から類推しづらいもの、一般的な英語の用法での意味とは異なる意味で用いられるものなどを優先的に選んだ。

それぞれの単語・複合語には発音記号と論文コーパスから例文を選び日本語訳をつけて付記するとともに、間違いやすいポイントや気をつけてもらいたい点について note という形で説明を加えた。それに加えて、科学系の一般雑誌記事でコーパスを作成し、論文と科学系雑誌での頻度情報を示し、専門的な文章と一般的な文章での使用頻度に違いがあるかがわかるようにした。

教材は、コロケーション教材とは別の ESAP 語彙教材の専用 CLE コースサイトを作成し、教材・Quiz、Practice Quiz、Review Quiz、期末テストを用意した。学期の前半は単語、後半は複合語を扱い、それぞれで Review Quiz を行う形にした。

3. 秋冬学期

マルチリンガル教育センターの専任以外の教員の協力を得て、2 年次の理系の総合英語の授業でコロケーション教材の試用してもらうとともに、プロジェクトメンバーの授業では、単語・複合語の教材を試用した。

これらと並行して、新たな教材の方向性を決める議論を進めて、複単語表現 (multi-word expressions) や論文と口頭発表での表現の対比などを扱う可能性を探るため、論文コーパスや TED のスクリプトコーパスなどを分析し、頻度をもとにした表現リストを作成した。

4. 事後アンケート

後期に実施した ESAP 語彙教材に取り組んだ学生のアンケート(4 クラス、n=104)によると、80%の学生が「課題を楽しめた」と回答した。また、94%の学生が「課題は有益であった」と回答した。これは、論文や科学系の一般雑誌記事を素材としてコーパスを作成しただけでなく、高校理科で扱われる用語の分析などを通して、「日本語では言えるが英語では言えない(思い付かない)語」を中心に教材を作成した成果であると考えられる。

Unit 01

1. **absorption** /əb'zɔ:pʃn/ (US /əb'zɔ:rpʃn/) J: ★★ M: ☆

Transmission and reflection measurements were made in order to determine the absorption.
吸収を決定するために、透過率測定と反射率測定を行った。

Both of them exhibited intensive light absorption in the visible light region.
いずれも可視光領域で強い光吸収を示した。

2. **application** /,æplɪ'keɪʃn/ J: ★★★★★ M: ☆

Many applications require stochastic computations in nested loops.
多くのアプリケーションでは、ネストされたループの中で確率的な計算を行う必要がある。

Unfortunately, these approaches are not robust, limiting their forensic application.
しかし残念ながら、これらのアプローチは堅牢性に欠けるため、科学捜査への応用には限界がある。

Note: 学校や会社等への「願書・応募書類」という意味もよく使われます。

3. **atom** /'ætəm/ J: ★★★★★ M: ☆

The Fe atoms generate local magnetic field inhomogeneities.
Fe 原子は局所的な磁場不均一性を発生させる。

The medium-size model contains up to 122 atoms.
中型モデルは、最大 122 個の原子を含む。

Note: 一音節（音節がひとつ）語です。一音節語とは、手拍子を一叩く間（1 拍）に発音する語です。ア・トムと読むと 3 拍になるので注意しましょう。Unit01 だけでも一音節語はたくさんあります。1 拍で読めるか確かめましょう。

4. **cation** /'kætaɪən/ J: ★ M: ☆

For example, Nakamura classified the respective cations according to their ionic radii.
例えば中村は、それぞれの陽イオンをイオン半径で分類した。

From electrochemical data, this light blue species is assigned the TTz1+ radical cation.
電気化学的なデータから、この水色の種は TTz1+ラジカルカチオンであると推測される。

Note: 日本語の「カチオン」と英語の cation は全く音が違います。application の下線部とも音が違います。辞書やネットで音を聞いておきましょう。

ESAP Vocabulary FW2022

(↑) 単語教材の一例: J と M は科学・工学系論文コーパスと科学系の一般雑誌記事コーパスでの頻度を星で表している。多くの語には学部生向けの「ノート」を付け、この語を使う際に注意することなどを簡潔に記した。

(4) TOEIC 対策夏季集中講座

マルチリンガル教育センターでは、学生の英語力強化を目的として、学部生及び大学院生の希望者に対して令和4年9月に「TOEIC 対策夏季集中講座」を実施した。9月1日、9日、12日、16日、22日の全5回の講義をAグループ(定員30名)、Bグループ(定員30名)に分けて計60名に対して実施する予定だったが、予想をはるかに上回る123名の受講希望者があったため、Aグループ43名、Bグループ40名の計83名を受講者として実施した。

講座の概要については以下の表を参照。

TOEIC®対策講座の概要

回 / 日程	ターゲット	概要
第1回目 9月1日 (木)	1. TOEIC®のスコアアップに必要なこと 2. リスニングの攻略ポイント (Part 1~Part 2)	<ul style="list-style-type: none"> ・700点を突破する～スコアアップのために ・TOEIC®テストの基本 ・TOEIC®学習を英語コミュニケーションスキル向上に活かす ・Part 1~Part 2の注意点と攻略のポイント ・重要語彙と英語表現
第2回目 9月9日 (金)	1. 各パート攻略の具体的なメソッド 2. リスニングの攻略ポイント (Part 2~Part 3)	<ul style="list-style-type: none"> ・TOEIC®スコアアップのテクニック ・各パートの注意点と攻略法 ・TOEIC®本番対策～必ず知っておくべきこと ・Part 2~Part 3の注意点と攻略のポイント ・重要語彙と英語表現
第3回目 9月12日 (月)	1. 英語スキルアップ自己学習法 2. リスニングの攻略ポイント (Part 4) 3. リーディングの攻略ポイント (Part 5)	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の現状を診断し、解決法を知る ・英語スキル向上のための自己学習法 ・Part 4の注意点と攻略のポイント ・Part 5の注意点と攻略のポイント ・重要語彙と英語表現
第4回目 9月16日 (金)	1. リーディングの攻略ポイント (Part 5, Part 6, Part 7) 2. 英文法問題の解き方 3. 文のつながり、読解のコツ	<ul style="list-style-type: none"> ・Part 5, Part 6, Part 7の注意点と攻略のポイント ・英文の読み方 ・文と文の接続 ・速読と熟読 ・重要語彙と英語表現
第5回目 9月22日 (木)	1. リーディングの攻略ポイント (Part 7) 2. 長文読解の解き方 3. 改善・向上への総まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・Part 7の注意点と攻略のポイント ・長文問題のコツ ・複雑な長文問題 ・重要語彙と英語表現 ・総復習とまとめ
TOEIC IPテスト 9月26日 (月)	TOEIC IPテスト受験	<ul style="list-style-type: none"> ・TOEIC® IPテストで英語力の自己診断

アンケート結果については以下のグラフ及び表を参照。

大阪大学 TOEIC 対策夏季集中講座(9/1～9/22) アンケート集計結果

Q1. 講座の全般的な内容に関して



【全体(Group A+Group B)】

Q1. 講座の全般的な内容に関して	回答者数	件数	割合
① とても役に立った	27	24	89%
② 役に立った	27	3	11%
③ あまり役に立たなかった	27	0	0%
④ 役に立たなかった	27	0	0%



【Group A】

Q1. 講座の全般的な内容に関して	回答者数	件数	割合
① とても役に立った	18	15	83%
② 役に立った	18	3	17%
③ あまり役に立たなかった	18	0	0%
④ 役に立たなかった	18	0	0%



【Group B】

Q1. 講座の全般的な内容に関して	回答者数	件数	割合
① とても役に立った	9	9	100%
② 役に立った	9	0	0%
③ あまり役に立たなかった	9	0	0%
④ 役に立たなかった	9	0	0%

○TOEIC IP テスト

学部高学年生や大学院生を含む全学生を対象に希望を募り、TOEIC IP テストを4回実施した。受験者数は、9月26日218名、12月17日101名、2月10日実施124名、3月10日実施85名の計528名だった。スコアについては、平均点は700.59点(TOEFL ITP540点相当)、また、TOEFL ITP550点以上相当のTOEIC IP730点以上の学生は528名中238名で受験者数との比率45.08%となり、ともに高い水準だった。以上のTOEIC対策集中講座及びTOEIC IPテストの実施により、大阪大学の学生の英語力の自己評価を促進し、英語学習へのモチベーションを高めることができた。

◎令和5年度 TOEIC IP テスト実施状況

	9月26日実施	12月17日実施	2月10日実施	3月10日実施	合計
受験者数	218名	101名	124名	85名	528名
平均点	677.25	746.19	690.69	720.71	700.59 (TOEFL ITP540点相当)
スコア730以上(TOEFL ITP550以上相当)の学生の割合(受験者数比)	38.53%	58.42%	41.13%	51.76%	45.08%

(5) OU マルチリンガルプラザ

1. 概要

OU マルチリンガルプラザは、英語・多言語・および外国語としての日本語の学習を対象に、課外の自律的な学びを支援する施設として、2020 年 4 月に豊中キャンパス・サイバーメディアセンター豊中教育研究棟 4 階に開室された。また、2021 年度には、吹田キャンパス IC ホール 2 階に分室が開室された。

OU マルチリンガルプラザでは以下のようなことを行っている。

- ・自習スペースとしての施設の開放
- ・大阪大学で専攻語として学べる 25 言語の参考図書の配架
- ・言語学習ポートフォリオの発行、配布
- ・会話練習パートナーとのセッション(英語・日本語・中国語・韓国語 1 セッション各 20 分)
- ・言語学習アドバイジング
- ・留学生等を対象とした日本語チュータリング
- ・言語学習ポートフォリオワークショップ(日本語学習・多言語学習)
- ・TA/TF の企画・進行による、言語学習および多文化理解に関するイベントの開催

そのほか、ウェブサイト・Twitter・Instagram・KOAN でイベントの利用者の募集のほか、多言語学習や多文化理解に関する情報を発信した。

2. 2022 年度の運営状況

2021 年度までは、ワークショップや会話練習などのすべての活動をオンラインにて実施していたが、2022 年度は豊中及び吹田にて、初めて施設を開室し対面での運営が実現した。これにより、学習対象言語の自習や、配架している参考図書の閲覧のために施設を利用する人たちがみられた。一方で、会話練習や一部のイベントやワークショップでは、希望によりオンラインでの参加も可能とし、ハイブリッド形式で実施した。

豊中と吹田のそれぞれの施設において、今年度実施したイベントやワークショップは以下の通りである。

・豊中

- ①英語、日本語、中国語、韓国語の会話練習
- ②日本語学習アドバイジング
- ③留学生等を対象とした日本語チュータリング
- ④言語学習ポートフォリオワークショップ
- ⑤TA/TF 企画による多言語・多文化理解を促進するイベント

- ・世界の音楽を聴こう！
- ・みんなで語ろう！私の言語学習
- ・世界の料理を楽しもう！1, 2
- ・世界の不思議な風習
- ・あなたもマルチリンガルになろう！ 中国語・フランス語・アラビア語入門編
- ・世界の料理を作ろう！
- ・ウミガメのスープ (Situation Puzzles)

- ⑥TA/TF 企画によるグループ会話「日本語サロン」

- ⑦スワヒリ語・東アフリカの文化ワークショップ

このほか、人文学研究科の北井聡子先生の企画による特別セミナー「『ゴールデンカムイ』から考える極東ロシアの歴史と少数民族」を開催した。

・吹田

OU マルチリンガルプラザ IC ホール分室(OMPIC)は、日本語を学ぶ留学生および研究員を対象とした日本語グループ会話「OMPIC サロン」を実施した。主に吹田キャンパスで研究する理系の留学生と研究員の参加があった。



写真1: 25言語の参考図書



写真2: TA/TF 企画による多言語・多文化理解
イベント（「世界の料理を楽しもう！」）



写真 3: 特別セミナー



写真 4: 日本語サロン



写真 5: OMPIC サロン

サービスの利用者数は、延べ 977 名(春夏学期 484名、秋冬学期 493名)であった。

なお、2022 年度のサービス別利用者割合は以下のグラフの通りである。対面および Zoom によるハイブリッドでサポートを実施したが、対面での利用者が約 7 割であった。

また、会話練習においては、英語運用能力の向上が全学的な課題であること、そして

英語会話練習へのニーズが高いことから、英語枠を増やしたところ、より多くの利用者を得た。

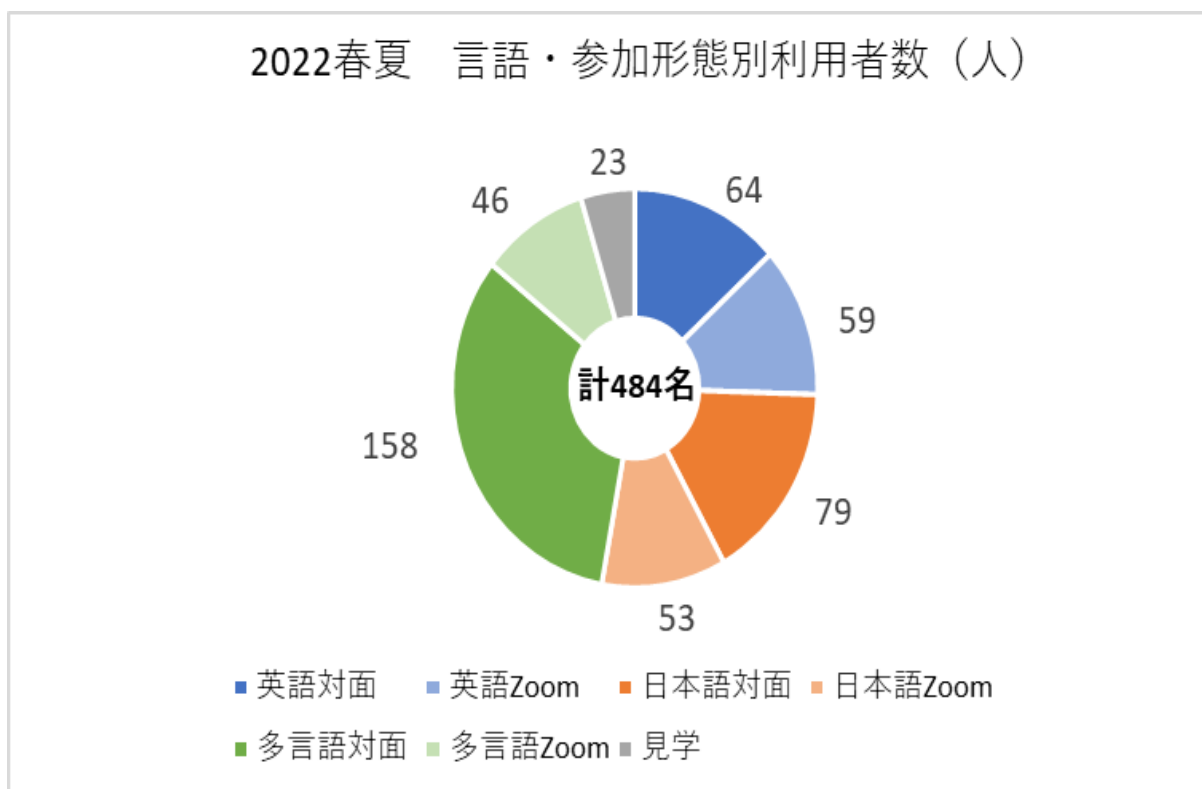


図 1. 2022 年度春夏学期のサービス別利用者数

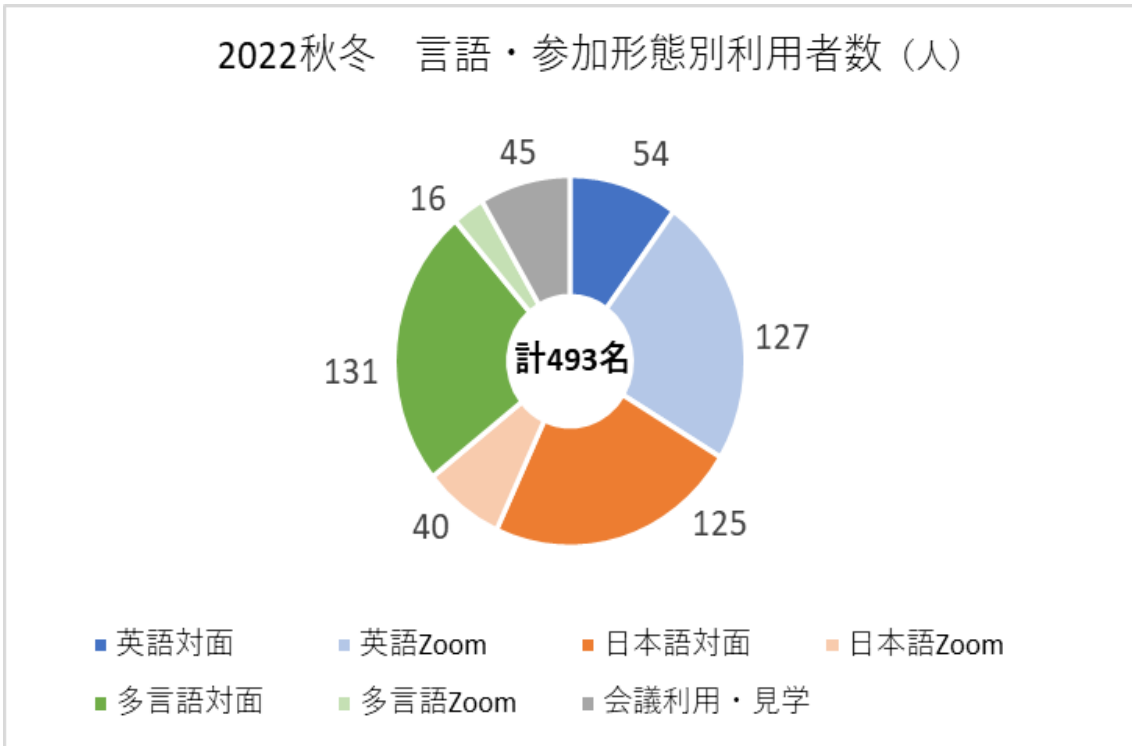


図 2. 2022 年度秋冬学期のサービス別利用者数

3. 多言語学習支援ネットワークへの参加

現在、大阪大学内には、OU マルチリンガルプラザにもさまざまな言語学習支援や多言語・多文化の交流促進のための取り組みが行われているが、それらの活動の趣旨や日時が重複していたり、それぞれの活動が個別で実施されていたりすることにより、活動の情報の共有がうまくなされていないという課題がある。そこで 2022 年度には国際教育交流センター主催で「学習・学修支援、多言語・多文化交流促進に関する情報共有・意見交換会」が 2 回開催され、OU マルチリンガルプラザ運営スタッフもメンバーとして参加した。なお、初回のミーティングは当施設で開催され、各学習支援サービスの担当者が集い、意見と情報の交換が活発になされた。この意見交換会は、次年度以降もさらなる緊密なネットワークづくりに取り組む予定である。

(5) 各種 FD

1. FD 講演

大阪大学は、国際基準の英語力とされる TOEFL iBT 79 点(または他の試用においてそれに相当する得点・レベル)を満たす学生の割合を、令和 9 年度に 4 年次在学生の 30%とすることを目標とし、さまざまな教育的事業を実施している。

この TOEFL iBT をはじめとし、IELTS、TOEIC Speaking & Writing など国際的な英語運用能力試験では、他の能力と並び、スピーキングやプレゼンテーション力などの口頭表現能力の測定を必須要素としており、近年その重要性は一段と高まっている。もちろんその背景には、アカデミック・イングリッシュの口頭表現面での能力や口頭コミュニケーション能力が、教育・研究のさまざまな局面で必須となっている事情がある。

こうした状況に応えるため、マルチリンガル教育センターの学習支援・社会学共創開発オフィスでは、令和 4 年度スーパーグローバル大学創成支援事業「語学学習支援の強化—学習アクセスと指導」の枠組みで 2 回の FD 講演会を開催し、スピーキング能力育成のための最新の教育・指導法、および同能力の測定をめぐる近年の研究・実践状況について、この分野の第一人者から専門的知識の供与を受け、討論によって理解を深めた。

FD 講演 1

日時:2023 年 3 月 22 日(水) 15.00~16.30

会場:大阪大学豊中キャンパス言語文化 A 棟 3 階 A307 講義室

演題:「外国語教育におけるスピーキングと会話のテストの現状と展望」 講師:岩下倫子(オーストラリア・クイーンズランド大学言語文化学部)

参加者:18 名

FD 講演 2

日時:2023 年 3 月 24 日(金) 15.00~16.30

会場:大阪大学豊中キャンパス言語文化 A 棟 2 階 A204 大会議室

(Zoom を利用したハイブリッド講演)

演題:“Benefits and challenges in assessing interactional competence: Current status and future directions in research” 講師:Dr Noriko Iwashita (School of Languages and Cultures, University of Queensland, Australia)

参加者:37 名

2. FD 活動

各言語部会においても第二外国語教育をめぐって下記の FD 活動が行われた。

FD 活動 1

日時:2022 年 12 月 7 日～8 日

実施手段: メール審議

実施内容:シラバス中の中国語科目「授業の目的と概要」及び「学習目標」の統一に向けた討論

参加者: 3名